

| 議長 | 副議長 | 事務局長 | 次長 | 係長 | 係員 |
|----|-----|------|----|----|----|
| | | | | | |

令和4年11月4日

三沢市議会
議長 堀 光雄 殿

三沢市議会 かがやき
議員 遠藤 泰子
議員 田嶋 孝安

旅行の復命について

下記のとおり、行政視察を実施したので、その概要について復命いたします。

記

1. 期間 令和4年10月19日～令和4年10月21日

2. 視察先

- ① 宮崎県小林市
- ② 宮崎県宮崎市

3. 視察事項

- 【小林市】ふるさと納税について
- 【宮崎市】公民連携相談窓口について

4. 詳細は別紙のとおり

5. 所感

小林市（ふるさと納税）

小林市は人口42,620人と当市と同規模の市であり、産業基盤等の環境も類似している。こうした中で、ふるさと納税額においては、令和3年度は、13億円余りとなり、当市の50倍以上もの寄付を受けている。

令和3年度の取組

- 1、 ファンサポートーズクラブの設置…寄付を集める視点だけではなく魅力あるふるさとの情報を発信し、リピーターになってもらうことを目的としている。
- 2、 事業者の開発支援…事業者個々が商品を開発するのではなく、事業者間のコラボを支援することにより新たな商品開発となった。
- 3、 返礼品のブラッシュアップ…280品目の返礼品を入れ替えし、寄付者のニーズに沿った商品を出品した
- 4、 効果的なプロモーション…キャンペーンを開催や公式ツイッターと連動させ、寄付者自身に市の魅力とともに商品の魅力を伝える取り組みを行った。

農家との連携

B印プロジェクト…規格外の農畜産物は低価格となることから、端物を前面に出した商品づくりにより、農家支援とともにフードロス対策を訴えた。

起業家支援

ふるさと納税を起点としたビジネスチャレンジを応援するプロジェクトに投資し、チャレンジ精神のある若者のバックアップをとった。

シティプロモーションの取り組み（コンセプト）

- ・みんなで発信…市民全体で街の魅力を楽しみながら発信し交流の輪を広げることで、愛される地域を目指す。
- ・新たな形で情報発信…高校連携ハッシュタグメディア、ハッシュタグフォトコンテスト、ローカルCM制作など

ワークショップ

ワークショップのメンバーを、既存の協働のまちづくり実行委員から、若者世代へ切り替えたことにより、自由闊達な意見が飛び交いアイデアが出まくったとのこと。動画コンテストやエピソードコンテスト、ポスター作りなども多大な効果があったとのこと。

まとめ

感想として、ふるさと納税のみで考えるのではなく、地域の魅力を洗い出し、市民を巻き込み、全国へ発信。農家も事業者も若者も高齢者も市も民間も、すべてが地元の魅力を楽しみながら発見し、全国へ交流の輪を広げる取り組みが印象的であった。このことにより、地域の雇用の場の確保、人口減少対策、地元愛の醸成となり、未来を見据えた取り組みとなっているものと感じた。三沢市においてもこのような取り組みは可能であると考えております。

宮崎市（公民連携相談窓口）

宮崎市は人口40万人の中核市に指定され、数多くの観光資源を持つ観光都市でもあり、九州・沖縄地方では大分に次いで6番目に入り人口が多い。

コロナ禍のもと、社会課題を解決しながら力強く経済政策を推進するためには経済を担う主体である民間と行政の公民連携が必要不可欠であるとのことからスタートした。

令和3年度の取組

- 1、民間企業のノウハウや資源を活用。
- 2、公民連携の窓口を一元化。
- 3、都市戦略課を設置し、幅広い分野での公民連携を推進。
- 4、市戦略担当参与を新設し、公民連携機能強化、産学官連携による政策立案。
- 5、「みやざき CITY PORT」公民連携総合窓口を設置し、公民窓口の拠点かつ窓口を担う。（ホームページにて24時間365日受付）

公民連携するテーマ

- 1、指定型テーマ（市の行政課題を提示に対して民間事業者が提案）

- ① ふるさと納税に関する提案。
- ②マイナンバーカードの普及促進。
- ③持続可能な温泉施設運営。
- ④移住促進に係る効果的な情報発信
 - ・オンライン移住イベント開催（SURF WORK in 宮崎）

- 2、自由形テーマ（民間事業者が提案し、市が内容を精査）

- ・パイロットへのトレーニングノウハウを活用した研修会開催。
- ・タブレットを活用した高齢者の生活サポートの実証実験。
- ・食と農に関する連携協定を締結。

窓口の効果

- ・民間の専門性やノウハウを活用した事業の創設。
- ・オープン窓口による公平性・透明性の確保。
- ・窓口の一元化による提案環境の向上。
- ・市役所内外の公民連携の意識の醸成。

まとめ

宮崎市は当市と比較し人口が多いため参加事業者が多いものと思っていたが、市外の事業者からの応募もあり、行政と民間のみならず、市外からの視点も加わり、未来を見据えた社会が抱える課題に対する取り組み方としては、三沢市においても可能であると感じたところであり、公民連携による持続可能なまちづくり等の充実に役立てていけるものと考えております。







20 / 100



